

平成24年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校3年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	資料を読み取ったうえで、適切な言葉づかいで話すことの正答率が低かったが話の中心に気を付けて聞くことはよくできている。	日常的に「話す、聞く」活動を取り入れ、話し手の意図を感じながら聞きとり、話すことができるよう、継続して指導する。
説明的文章	文章の要点を捉えることに関しては理解が不十分であったが、細かい点に注意して文章を読み取ることはできる。	各段落の要点を読み取っていくとともに、段落と段落のつながりや段落の役割について考えさせる指導に力を入れていきたい。
文学的文章	「場面の移り変わりを読み取る」ことは市の平均を上回ったが、「登場人物の気持ちを読み取る」「あらすじの要約」に関しては若干市の平均を下回った。	場面を区切り、場面ごとに文脈に沿って、登場人物の気持ちや場面の様子を読み取り、文章でまとめていく指導を行う。
漢字	2学年配当漢字の書き取りに間違いが見られたが3学年の配当漢字の読み書きはとてもよくできた。	新出漢字の学習にとどまることなく、日常の表現指導（ノート、作文、日記、手紙）においても既習の漢字を使う指導の徹底を図る。
言語事項	ローマ字の読みでは高い正答率であった。漢字のへんについてもよく理解している。国語辞典の使い方についても市の平均を上回った。	地域学校園での辞書活用の取り組みが成果となって表れた。漢字の成り立ちや意味、部首についても継続指導し、習得を図る。
作文	書こうとすることの中心を明確にして書くや理由をあげて書くことに関しては全員が正答であった。	具体的な場面に即して、作文を書く経験を重ねるとともに段落構成で書く指導を図る。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	全体的には概ね理解しているが、「あまりのあるわり算」や何倍かを求めるわり算の文章題の正答率が低かった。	文章から問われていることを確認し、何算になるのかを考えることができるように、場面絵や図を活用しながら繰り返し指導を行いたい。
量と測定	ものさしやはかりの長さや重さを正しく読むことはできるが、身近にあるものの重さを推察して適切な単位を使うことについては理解が不十分であった。	具体物を実際にはかる活動積極的に取り入れ、日常生活で使われている重さや時間を意識させながら、繰り返し指導をしていく。
数量関係	「棒グラフ」の読み取りはよくできるが「□を使った式」の正答率が低かった。「□を使った式」では、たし算、ひき算の立式はできるが、かけ算の場面の理解が不十分であった。	何算の場面なのかをイメージできるように、式から文章題を作る活動を積極的に取り入れたたり、図や絵で文章を表現する活動を充実させる。